「私の学校自慢」

１．テーマ：「リハビリテーション専門学校生との協同学習」

２．カテゴリー：③教育方法（授業・演習・実習など）

３．学校概要

・学校名：松阪看護専門学校

・所在地：三重県松阪市鎌田町 145-4

・課程名：3 年課程　1 学年定員数：40 名　修業年限：3 年

・教育理念：地域住民の健康と安全を守るために、人を大切にする心と考える力のある看護実践者を育成する。

・カリキュラム改正に伴い「多職種連携」1 単位 15 時間を 3 年次後期に新設した。本科目の中では伊勢志摩リハビリテーション専門学校生との協同学習を取り入れている。開講は令和 6 年度からであるが、シームレスな看護教育を目指し令和 3 年度より旧カリキュラム学生も教科外活動として協同学習を実施している。

４．内容

「多職種連携」科目の 8 時間分で理学療法士科の学生と協同学習を実施する。協同学習は一人の事例患者さんの情報を看護師、理学療法士それぞれの職種の視点から整理し、1 枚の〝多職種連携情報共有ワークシート〞を使って整理していく。この情報整理を通して一人の患者さんの全体像を共通理解をする。その後、患者さんの退院に向けて共通の目標を話し合い、具体策を考える。多職種で協力して実施する事、看護師、理学療法士が独自の役割として担うことなど役割分担も含めて考えていく。また、多職種で効果的な連携を行うための留意点や工夫点なども話し合う。話し合った結果をグループ発表し学びを深める。グループワークには２校それぞれの教員がファシリテーターとなる。効果的なファシリテートができるようファシリテーションガイドを共有しそれを参考にしながら話し合いを見守る。

５．担当者の感想

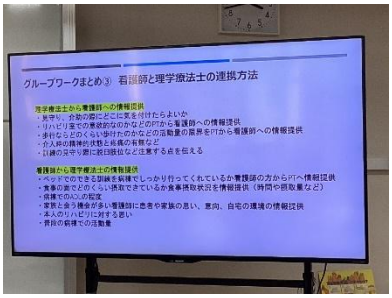
学生は実習の場で多職種が参加しているカンファレンスを見学することはあっても、実際に当時者としてディスカッションする経験はほとんどない。本科目では看護師と理学療法士と 2 職種ではあるが、意見交換できることは大きな意味があると考える。他職種の得意とするところを発見し、連携・協働の大切さを実感することができる。そして、職種が違うからこそ視点や大事にしたい点が異なり、多様な視点から統合的に患者さんを捉える必要があることを学ぶことができる。さらに他の職種と効果的な連携を図るには他の職種の意見に耳を傾け、共通の用語を用いてコミュニケーションをとるなど連携方法にも工夫がいることを身をもって感じることができる。

このように協同学習は、松阪看護専門学校、伊勢志摩リハビリテーション専門学校両校ともに得るものが多く、今後ますます多職種連携の重要性が高まる医療や介護においてなくてはならない科目であると感じる。



それぞれの職種の視点から積極的な意見交換を行います。





看護師と理学療法士、2 校の学生が協力して発表します。